

令和7年度 病害虫発生予報 第10号

令和8年1月16日
千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の（＋）は多発要因、（－）は少発要因であることを示す。また、【 】内の数値は左側が12月下旬～1月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値（過去10年の平均値）を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ（※）の「総合防除の内容」を参照するとともに、3ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

千葉県総合防除計画（令和6年3月版）



作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (12月下旬～1月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
冬春トマト	うどんこ病	少	発病株率：やや少【0.00%/1.48%】（－） 気象予報：日照時間多（－）	30
	オンシツコナジラミ	やや多	成虫寄生株率（オンシツコナジラミ）：並【0.00%/0.13%】 成虫寄生株率（タバココナジラミ）：多【1.60%/0.08%】（＋） 12月黄色粘着トラップ誘殺数：やや多【1.29頭/0.34頭】（＋） 気象予報：日照時間多（＋）	33
	タバココナジラミ	多		
冬春キュウリ	うどんこ病	少	発病葉率：少【0.00%/8.22%】（－） 気象予報：日照時間多（－）	37
	褐斑病	並	発病葉率：並【0.00%/0.00%】 気象予報：日照時間多（－）	38
	菌核病	並	果実発病度：並【0.00/0.16】 気象予報：日照時間多（－）	－
	べと病	やや少	発病葉率：並【2.40%/12.01%】 気象予報：日照時間多（－）	39
	アザミウマ類	多	成幼虫寄生株率：やや多【3.20%/0.48%】（＋） 気象予報：日照時間多（＋）	39
キャベツ	菌核病	並	発病株率（冬キャベツ）：並【0.00%/0.86%】 発病株率（春キャベツ）：並【0.00%/0.00%】 気象予報：降水量少（－）	36
冬レタス	灰色かび病	並	発病株率：並【0.00%/0.11%】 気象予報：日照時間多（＋）降水量少（－）	42
	菌核病	やや少	発病株率：やや少【0.00%/0.87%】（－） 気象予報：日照時間多（＋）降水量少（－）	41

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (12月下旬～1月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
イチゴ	うどんこ病	少	発病株率：やや少【0.80%/3.40%】（－） 気象予報：日照時間多（－）	<u>42</u>
	アザミウマ類	やや多	成幼虫寄生株率：並【0.53%/0.54%】 気象予報：日照時間多（＋）	<u>44</u>
	ハダニ類	並	成虫寄生株率：並【13.60%/19.11%】 気象予報：日照時間多（＋）	<u>45</u>
施設野菜共通	灰色かび病	やや少	発病株率（冬春トマト）：並【0.00%/0.08%】 “（イチゴ）：並【0.00%/0.03%】 発病果率（冬春キュウリ）：並【0.00%/0.09%】 気象予報：日照時間多（－）	－
カーネーション	アザミウマ類	やや多	被害株率：並【12.00%/9.56%】 12月黄色粘着トラップ誘殺数：多【4.62頭/1.49頭】（＋） 気象予報：日照時間多（＋）	－
	ハダニ類	やや多	成虫寄生株率：やや多【0.80%/1.22%】（＋） 気象予報：日照時間多（＋）	－
施設ストック	菌核病	並	発病株率：並【0.00%/0.64%】 前年2月発病株率：並【0.00%/0.15%】 気象予報：日照時間多（＋）	－
野菜・花き共通	コナガ	やや少	12月フェロモントラップ誘殺数：やや少【0.10頭/0.70頭】（－） 10株当たり寄生幼虫蛹数（冬キャベツ）： “（春キャベツ）：やや少【0.00頭/0.24頭】（－） “（春キャベツ）：やや少【0.00頭/0.13頭】（－） 幼虫寄生株率（施設ストック）：並【0.00%/0.88%】 気象予報：気温並か低（－）降水量少（＋）	<u>45</u>

* 1 フェロモントラップ誘殺数：1日当たりの誘殺数

1 防除に関する措置（共通）

- （１）病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- （２）発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- （３）害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- （４）病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

- （１）コナジラミ類（冬春トマト）

令和７年度病害虫発生予報第２号Ｐ３「これから注意を要する病害虫」も参照する。



- （２）アザミウマ類（冬春キュウリ）

令和７年度病害虫発生予報第５号Ｐ４～５「これから注意を要する病害虫」も参照する。



- （３）ハダニ類（カーネーション）

晴天が続くと急激に密度が高まるので、ほ場をよく観察し、発生初期からの防除を心掛ける。農薬散布は葉裏まで充分にかかるように行う。令和７年版農作物病害虫雑草防除指針（カーネーション）も参照し、薬剤抵抗性の発達を防ぐために、ＩＲＡＣコードが異なる薬剤をローテーションで選択する。



Ⅱ これから注意を要する病害虫

水稻の種子消毒について

水稻の種子伝染性病害には、いもち病、ばか苗病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病等がある。育苗期に発病すると移植前の苗を萎凋・枯死させるだけでなく、本田での第一次感染源となる。

種子伝染性病害の防除は、は種前の種子消毒で実施するが、処理方法が適切でないと防除効果が低下し、育苗床及び本田の病害発生を助長してしまう。

そのため、本項を参考に適切な種子消毒を実施し、防除効果を最大限高めるとともに、耕種的防除（無病種子の使用、作業場の清掃等）を組み合わせた総合防除を行うことが重要である。

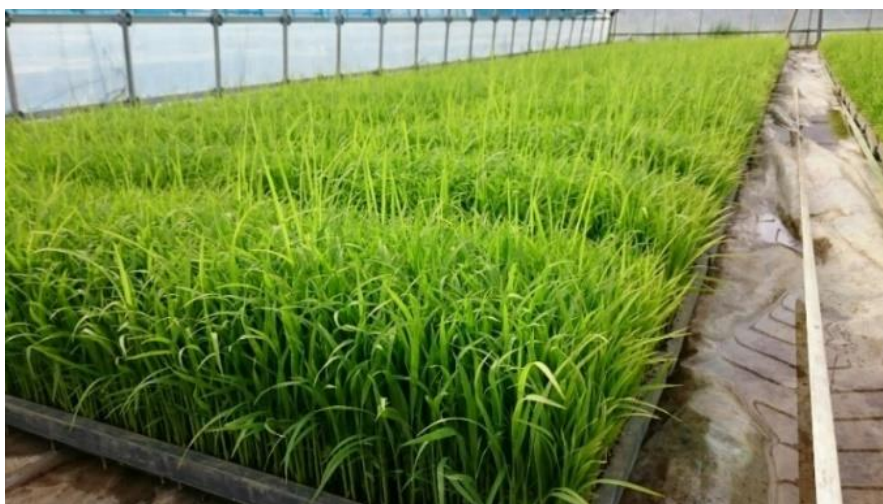


写真 1 育苗床におけるばか苗病発病株

〈育苗期の防除対策〉

1 耕種的防除

- (1) 無病種子を用いる。
- (2) 塩水選を行った健全な種もみを用いる。
- (3) 作業場を十分清掃し、伝染源となる多発ほ場の収穫物（わら、もみ）を除去する。
- (4) 消毒前と消毒後の種もみを、同じパレットやシート等に置かない。
- (5) 浸種、催芽で使用する機器や容器は、イチバン等で消毒する。
- (6) ばか苗病発病株は見つけ次第直ちに抜き取り、離れたところに埋設するか焼却する。
- (7) ばか苗病が発生した育苗箱の苗は、採種ほ周辺に植え付けない。
- (8) 20℃以上で浸種すると細菌性病害の発生を助長するので、10℃～15℃で行う。
- (9) 催芽は30℃で行う。32℃以上の高温は細菌性病害の発生を助長する。
- (10) 出芽後は温度管理を厳格に行い、25℃以下で管理する。夜間は低温に当てないように管理し、冷水によるかん水は行わない。

2 物理的・生物的防除

- (1) 温湯消毒を行う場合、種もみを「60℃・10分間」で処理する。処理条件が異なると発芽率や防除効果が低下するため、「60℃・10分間」の処理条件を遵守する。もち品種及び割れもみは発芽率が低下するおそれがある。
- (2) 温湯消毒は処理後の残効がなく、単用では化学合成農薬より効果が劣る場合があるため、微生物農薬と組み合わせた体系的な処理を行う（図、表1）。
- (3) 微生物農薬による種子消毒を行う際は、種もみを十分な量（容量比1：1以上）の薬液に浸漬する。薬液の温度が低いと効果が低下するため温度を10℃以上に保つ。浸種前、浸種中に浸漬処理をした場合は、処理後必ず水に交換する。その後水換えは頻繁に行わない。

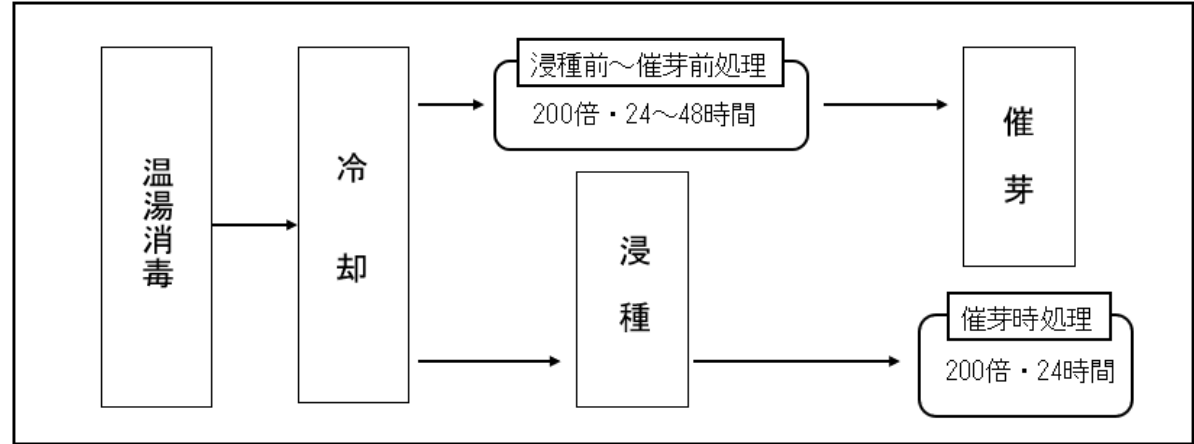


図 温湯消毒と微生物農薬の組み合わせ例

表1 種子消毒（浸漬処理）で用いる微生物農薬（農作物病虫害雑草防除指針から引用）

FRAC コード ※1	薬剤名	使用時期	希釈倍数・処理時間	使用 回数	細菌			かび(糸状菌)				
					苗立枯細菌病	もみ枯細菌病	褐条病	ばか苗病	いもち病	リゾーパス菌	フザリウム菌	トリコデルマ菌
BM2	エコホープDJ	浸種前～催芽前	200 倍 24～48 時間	-	○	○	○	○	○	○		
		催芽時	200 倍 24 時間		○	○	○	○	○			
	タフブロック	浸種前	20 倍 1 時間							○	○	○
		浸種前～催芽前			○	○		○	○			
		催芽前	200 倍 24～48 時間		○	○		○	○	○	○	○
		催芽時	200 倍 24 時間		○	○	○	○	○	○	○	○

※1 FRACコード：殺菌剤の作用機構の分類を表すものである。

※2 浸漬処理後は過度な風乾を避ける。

※3 浸種が長期間になる場合は催芽前日または、催芽時に浸漬処理する。

3 化学的防除

- (1) 浸漬による種子消毒を行う際は、薬剤の効果を安定させるため、目の粗い袋にゆったり入れた種子を所定濃度で十分な量(容量比1:1以上)の薬液に浸し、袋をよく振り空気を追い出した後浸漬する。薬液の温度が低いと効果が低下するため温度を10℃以上に保つ。低濃度長時間処理の時は、袋をよくゆすって薬液をかく拌し、薬液は使いまわさない。処理後は水洗いせずに浸種する。
- (2) 浸種時の水温は10℃～15℃を目標に管理し、浸種後2日間は薬剤が落ちないように、水交換をしない。また、水交換を行う際は、静かに行う。ただし、ヘルシードTフロアブル、モミガードC・D・F、ヨネポンを使用する際は、原則水交換を行わない。

表2 種子消毒(浸漬処理)で用いる主要な化学合成農薬(農作物病虫害雑草防除指針から抜粋)

FRAC コード※1	薬剤名	希釈倍数・処理時間	使用 回数	細菌			かび(糸状菌)					
				苗立枯細菌病	もみ枯細菌病	褐条病	ばか苗病	いもち病	ごま葉枯病	リゾーパス菌	トリコデルマ菌	
3	スポルタック乳剤	100倍10分間 または1000倍24時間	1回				○	○	○			
	トリフミン水和剤※2 トリフミン乳剤	30倍10分間 または300倍24～48時間					○	○	○			
M1	ヨネポン	50～200倍24時間 または20倍10分間			○							
		50～100倍24時間 または20倍10分間							○			
		50倍24時間 または20倍10分間					○	○				
		100倍24時間 または20～30倍10分間		○		○						
3・M1	テクリードCフロアブル	20倍10分間 または200倍24時間		○	○	○	○	○	○	○	○	○
3・M3	ヘルシードTフロアブル	20倍10分間			○	○	○	○	○	○	○	○
		200倍24時間			○	○	○	○	○			
3・12・M1	モミガードC・D・F	200倍24時間		○	○	○	○	○	○	○	○	○

※1 FRACコード：殺菌剤の作用機構の分類を表すものである。

※2 トリフミン水和剤で浸漬処理した場合は、風乾後、水洗いせずに浸種する。

注 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

○主要病害虫の発生状況 巡回調査結果（野菜：1月上旬、花き：12月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
冬春トマト (海匠、長生)	うどんこ病	発病株率 (%)	0.00	1.48	0.00	頭/30日
	疫病	発病株率 (%)	0.00	0.04	0.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	〃	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	すすかび病	発病株率 (%)	0.40	0.48	3.20	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.00	0.13	0.00	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	1.60	0.08	0.00	
	コナジラミ類	黄色粘着トラップ誘殺数	1.29	0.34	0.09	
冬春キュウリ (山武)	うどんこ病	発病率 (%)	0.00	8.22	0.60	
	褐斑病	発病率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	菌核病	果実発病度	0.00	0.16	0.00	
	灰色かび病	果実発病度	0.00	0.28	0.00	
	〃	発病果率 (%)	0.00	0.09	0.00	
	べと病	発病率 (%)	2.40	12.01	0.80	
	オンシツコナジラミ	寄生株率 (%)	0.00	1.32	0.00	
	タバココナジラミ	寄生株率 (%)	6.40	2.50	14.40	
冬キャベツ (海匠)	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	3.20	0.48	0.80	
	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.86	0.00	
	黒腐病	発病度	0.00	3.39	13.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	4.00	0.80	0.00	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.24	0.00	
	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	黒腐病	発病度	0.20	0.25	1.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	1.60	1.98	12.80	
春キャベツ (海匠)	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.13	0.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.11	0.00	
	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.87	0.00	
	腐敗病	発病株率 (%)	0.00	0.22	0.00	
	べと病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	モモアカアブラムシ	成幼虫寄生株率 (%)	0.80	0.00	0.00	
	うどんこ病	発病株率 (%)	0.80	3.40	2.40	
	〃	発病果率 (%)	0.11	0.23	0.04	
イチゴ (海匠、山武、安房)	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.03	0.00	
	〃	発病果率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ワタアブラムシ	成幼虫寄生株率 (%)	0.80	3.09	5.07	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.05	0.27	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.53	0.54	0.27	
	ハダニ類	成虫寄生株率 (%)	13.60	19.11	7.20	
	萎凋症	発病株率 (%)	0.00	0.40	1.60	
	立枯病	発病株率 (%)	0.00	0.56	0.00	
カーネーション (安房)	アザミウマ類	被害株率 (%)	12.00	9.56	0.00	頭/30日
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	4.62	1.49	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	24.23	10.05	2.64	
	ハダニ類	成虫寄生株率 (%)	0.80	1.22	0.00	
	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.64	0.00	
	萎凋病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	黒腐病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
施設ストック (安房)	コナガ	被害株率 (%)	3.20	3.36	1.60	頭/30日
	〃	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.88	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.64	0.00	
	萎凋病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	黒腐病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	コナガ	被害株率 (%)	3.20	3.36	1.60	
	〃	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.88	0.00	

* 黄色粘着トラップ誘殺数は調査日数を30日に換算した値

トラップ月間誘殺数 (12月)

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匠	0.10	0.70	0.32	頭/日

○気象予報

1月15日気象庁発表

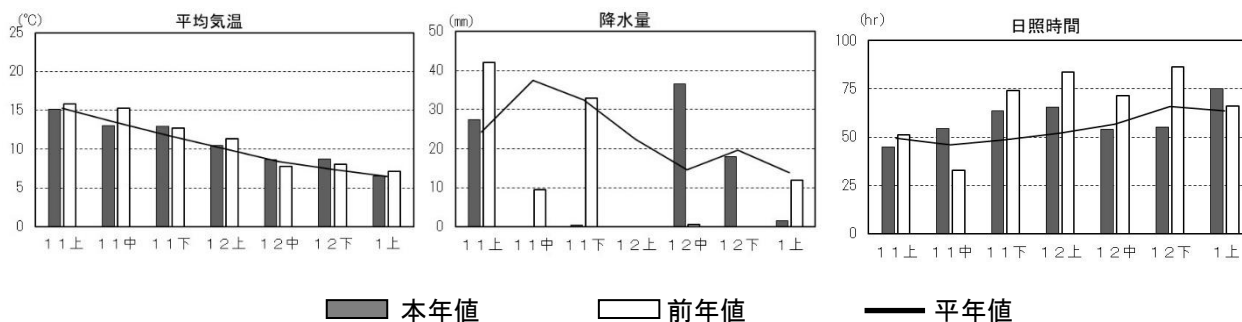
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	40	40	20
降水量	60	30	10
日照時間	10	30	60

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値
(1月17日～2月16日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(℃)	6.0	6.5	6.4
降水量(mm)	69.6	101.9	81.0
日照時間(hr)	187.6	178.1	172.9



過去2か月の気象概況 (アメダス千葉、銚子地方気象台提供)

農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

- ・ 次回の発行予定は3月18日です。
なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

- ・ 県内で栽培される主要な農作物に発生する病害虫や雑草を
防除するための指針が千葉県 HP で公開されています。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/shokubo/bojoshishin.html>

- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>



問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町 180 番地 1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafr-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp